

令和元年度 那覇市・南部6市町在宅医療・介護連携推進事業

那覇市医師会・南部地区医師会 合同研修会

※ 参加者アンケートの集計結果は別紙をご参照ください。

- 日 時：令和元年10月7日（月） 午後7時00分～8時30分
- 場 所：沖縄県医師会・3階ホール
- 講 演：『病院勤務医の在宅医療参入への試み』
講 師：那覇市医師会 在宅医療担当理事 嘉数 朗 氏
- 事例検討：『「その人らしく生きる」を地域で支える』
～生活と医療をつなぐ訪問看護～
講 師：訪問看護ステーションはえばる
訪問看護認定看護師 宮城 愛子 氏

○参加者：90名

(医師18名・歯科医師5名・薬剤師2名・栄養士2名、保健師2名・看護師10名・訪問看護師11名・リハビリ職5名・MSW11名・ケアマネジャー13名・介護職5名・行政他6名)



司会：湧上 民雄 氏



講師：嘉数 朗 氏



講師：宮城 愛子 氏



グループワーク（ディスカッション）の様子



グループワーク全体風景



グループワーク（ディスカッション）発表の様子



研修会後の合同親睦会の様子

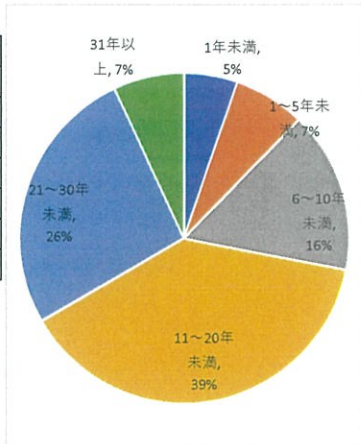
令和元年度 那覇市・南部6市町在宅医療・介護連携推進事業
那覇市医師会・南部地区医師会 合同研修会

日時：令和元年10月7日（月） 午後7時00分～8時30分
場所：沖縄県医師会・3階ホール

参加者：90名
回答者：57名
回収率：63.3%

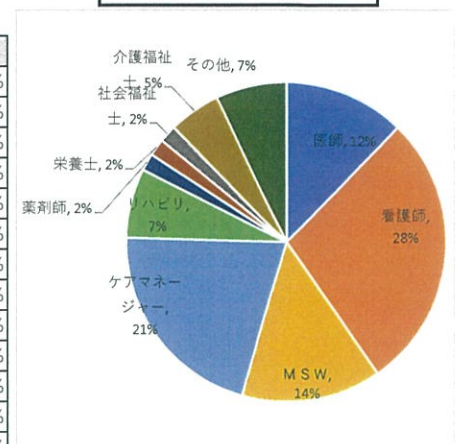
Q1 経験年数

経験年数	人数	割合
1年未満	3	5%
1～5年未満	4	7%
6～10年未満	9	16%
11～20年未満	22	39%
21～30年未満	15	26%
31年以上	4	7%
合計	57	100%



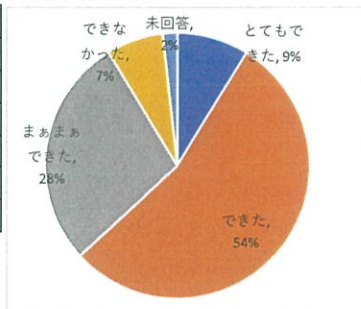
Q2 職種

職種	人数	割合
医師	7	12%
看護師	16	28%
保健師	0	0%
M S W	8	14%
ケアマネージャー	12	21%
リハビリ	4	7%
薬剤師	1	2%
栄養士	1	2%
社会福祉士	1	2%
介護福祉士	3	5%
歯科衛生士	0	0%
その他	4	7%
合計	57	100%



Q3 ご自身の意見を遠慮なく発言することができたか

	人数	割合
とてもできた	5	9%
できた	31	54%
まあまあできた	16	28%
できなかった	4	7%
未回答	1	2%
合計	57	100%



医師勤務場所	人数
病院	3
訪問	2
歯科	2

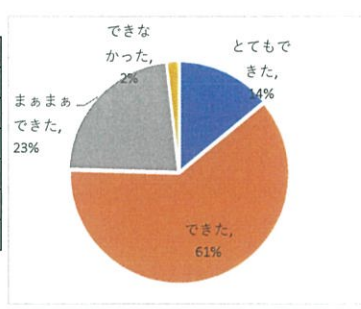
リハビリ勤務場所	人数
PT	2
OT	1
ST	1

看護師勤務場所	人数
病院	9
訪問	7
施設	0

介護福祉士勤務場所	人数
居宅系	2
GH	0
施設	0

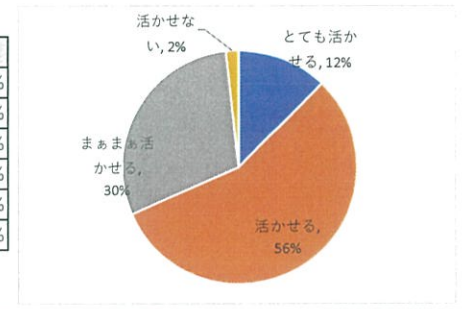
Q4 多職種の状況を理解できたか

	人数	割合
とてもできた	8	14%
できた	35	61%
まあまあできた	13	23%
できなかった	1	2%
未回答	0	0%
合計	57	100%



Q5 明日からの業務に活かせるか

	人数	割合
とても活かせる	7	12%
活かせる	32	56%
まあまあ活かせる	17	30%
活かさない	1	2%
未回答	0	0%
合計	57	100%



問6. 講演『病院勤務医の在宅医療参入への試み』について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

- ・これからは病院の医師達が在宅に関わっていくことも必要であることも知ることが出来ました。
- ・自部の病院の医師にも前向きに考えてほしいとすごく思った。
- ・すぐにでも多くの病院に取り入れて頂きたいと思いました。
- ・すごい分かりやすい説明で理解できました！！説得力があってよかったです。訪問診療をお引き受け下さる医療機関さんが増えますように・・・
- ・掘り下げて話を聴きたい。
- ・数値化 具体的な内容でした。
- ・看護の重要性
- ・勤務医の医師の仕事量が多い。2 4 時間連絡対応も大変だと思う
- ・病院に（訪問）在宅専門の医師は配置しても良いと思う。高度急性期・急性期ではなくて、地域包括の病棟を持つ病院が良いと思う。
- ・少数の職員でも協力が得られれば、在宅医療参入できる事実がわかりました。熱意を感じました。お疲れ様です。
- ・どんどん病院勤務医が在宅医療に参加したら本当にいいなと思いました。ぜひぜひ進めて頂きたいです。
- ・那覇市の現状と浦添市との対比が勉強になった。
- ・沖縄の今の現状を知り、在宅医療が徐々に進展して行けたらと希望します。
- ・在宅医療を活発にする為に訪問診療医が増えていく必要性を感じました。
- ・県、那覇市の状況の理解につながった
- ・訪問診療の現状を勉強できた。
- ・那覇市の状況を資料を通じて理解できた。

- ・訪問看護の利用が少ない理由が理解できた。
- ・地域医療支援病院として在宅に取り組みなければならないと思った。
- ・通所介護の利用の現状を理解しました。

問7. 講演『「その人らしく生きる」を地域で支える～生活と医療をつなぐ訪問看護』について、ご意見

・ご感想をお聞かせください。

- ・在宅での利用者の思いに寄り添うことの大切さ、本音を聞き出しケアを行うことの大切さを改めて知りました。
- ・訪問看護師の方々にはいつもお世話になっています。発表していた事例の方は訪問看護師の担う役割がとても大きかったと感じました。
- ・どのテーマも凄くよかったです。那覇市・・・頑張ってもらいたい！！ 敷居が下がってくれますように。
- ・掘り下げた話を聞きたい。
- ・短い時間の関わりでも素晴らしい看護。その人らしさを支えられたので素晴らしい。
- ・多職種の意見をきけてよかった。
- ・訪問看護の大切さがとても良く分かりました。これからもお世話になります。
- ・おつかれさまでした。
- ・本人が語った「在宅チームです」の言葉にウルッときました。本音だと思います。
- ・ご本人の望むことに対し、今後も支援していきたいと思いました。
- ・在宅が難しいような患者様でも、最大限その人の希望が叶えられるようなサポートをされていて素晴らしいと思いました。とても勉強になりました。
- ・在宅生活ではとても大切な役割だと感じています。近くに親身に相談できる関係を築いていきたい。
- ・「その思いを支える」ことがどういうことかを改めて考える機会になった。
- ・在宅ケアの大切を再確認できた。
- ・事例を通して理解が深まりました。
- ・家で看取る、是非そうしたい！！が連携は・・・。課題が残った。
- ・もう少しプロセスをじっくり聞きたかった。思いをくみ上げる丁寧な事例が良かった。

問8. 今後、どのようなプログラム（テーマ）があったら参加したいと思いますか？

- ・同じテーマでケアマネや他の職種の話も聞いてみたいです。
- ・地域関係
- ・終末期の多職種連携。医療との加算関係。対応状況。リハなどの専門職。
- ・独居で家族や周囲から孤立したケースの在宅支援とか。
- ・事例から学べるが多かった。
- ・集まって、情報交換をするだけでも！多職種で話す機会が欲しい。
- ・実症例をもとにした事例検討
- ・地域間連は携がとても大切だと感じています。
- ・那覇、南部合同というのがよかったです。また是非参加したいです。
- ・在宅支援の連携においてのテーマがもっと必要です。
- ・グループワーク・・・救急について。救急ガイドラインの作成。
- ・急性期病院と在宅支診、老人ホーム、在宅、警察、訪問看護の連携

問9. その他、今回の多職種連携研修会全体を通して、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

- ・グループワークを行うことで職種ならならでの「患者の本音を聞く」テクニックを学ぶ事ができました。
- ・良い機会を作っていただき、ありがとうございます。
- ・今回の研修、グループワークを更に深めて、多職種から見出す形を作り上げ、利用者さん、患者さんの「その人らしく生きる」を幅広く実現していきたい。
- ・すごく楽しく意見交換できました。ありがとうございました。
- ・グループワークの時間が短く、コミュニケーションはとれたが、課題解決には困難だった。
- ・グループワークは広く浅くだったので、時間も短かったように思います。
- ・訪問看護は少ないので、是非今後もテーマに取り上げて欲しい。
- ・もう少し時間が欲しかったです。
- ・様々な多職種の考えであったり、関わりにおいても参考になりました。
- ・色々な人と知り合えた。
- ・それぞれの立場から話が聞けて良かった。
- ・参加メンバーのリストを参加者に公開して、連携をとれるようにして欲しい。
- ・今後も繰り返し開催して欲しい。
- ・テンポが速かったですが、あっという間に感じたので逆によかったです。
- ・色々な情報がもらえて良かったです。今後も必要と思います。
- ・福祉の分野と介護、医療との連携の点で、今後も必要性を感じました。
- ・非常に有意義な会だと思います。これからも続けていけばと思います。